

「花と緑のぐんまづくり」における高校生の関わり方の評価に関する研究

藤岡市都市建設部都市施設課 ○正会員 松田 拓也
 前橋工科大学社会環境工学科 正会員 森田 哲夫
 前橋市都市計画部都市計画課 正会員 塚田 伸也
 群馬県県土整備部都市計画課 正会員 山田 真次

1. はじめに

2008年に実施された第25回全国都市緑化フェア（花と緑のシンフォニーぐんま2008）を契機に、2009年から群馬県内各市町で持ち回り開催として「花と緑のぐんまづくり」が始まった。2020年までに12市町で開催され、2021年の桐生市での開催を以ってこの事業が終了となる。

本研究では、「花と緑のぐんまづくり」の事業としての効果を、事業の持続性、県内高校との関わり方に着目し評価することを目的とする。

2. 既存研究と本研究の特徴

既存研究として、中村ら¹⁾が「全国都市緑化フェアの効果とイベントレガシーとしての評価」として、花と緑のぐんまづくりの契機となった、全国都市緑化フェアの実施状況とレガシーとしての継続事業について分析している。本研究では、既存研究の進め方を参考に事業の評価を行い、県内高校でのイベントへの関わり方に着目する点を研究の特徴とする。

3. 「花と緑のぐんまづくり」の実績

(1) 花と緑のぐんまづくり各開催地のまとめ

花と緑のぐんまづくりの実施の契機となった、全国都市緑化フェアは、国民ひとり一人が緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として、1983年から毎年、全国各地で開催されている。群馬県では、2008年に前橋市と高崎市の会場を中心に開催された。花と緑のぐんまづくりは、全国都市緑化フェアの理念を引継ぎ、県民と力をあわせ、花と緑あふれる、活力ある、美しい地域にするための事業として、2009年より各市町で開催。2020年時点で、延べ12回開催しており、2021年の桐生市での開催を以って、本事業は終了となる。開催状況については、表1にまとめる。

第12回開催の藤岡市は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実質的なイベントの実施はできなかったことから、来場者数は前年度に開催されたプレイイベント時の人数を記載している。

表1 花と緑のぐんまづくり各開催地のまとめ

項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回		
	高崎市	館林市	渋川市	前橋市	伊勢崎市	沼田市	中之条町	みどり市	富岡市	安中市	吉岡町	みなかみ町	藤岡市	桐生市	
開催年度		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
開催概要	開催期間	4月～5月	4月～5月	7月～10月	4月～5月	4月～5月	4月～5月	4月～5月	4月～5月	4月～5月	4月～5月	8月～9月	4月～5月	4月～5月	
	会場飾花数(万株)	10	7	10	10	10	7	18	11	6	9	4	7	18	
	来場者数(万人)	30	13	20	31	29	15	16	16	22	16	7	12	6	
	人口(万人) ※2020年時点	37.2	7.5	7.6	33.5	21.3	4.7	1.5	5.0	4.8	5.7	2.1	1.8	6.4	10.8
	来場者数/人口	0.8	1.7	2.6	0.9	1.4	3.2	10.7	3.2	4.6	2.8	3.3	6.7	0.9	
地域に関わり	高校	農業高校の有無													
	高校	花苗の提供	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		飾花				●	●	●			●		●	●	
		花育指導		●	●										
		ステージ・展示		●	●										●
その他子ども	販売				●	●								●	
	花育		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	
	飾花		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	
地域	ステージ			●							●		●		
	飾花	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
レガシー	維持管理	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	継続事業	イベント		●	●	●			●						
		オープンガーデン					●				●				
	新規事業	イベント			●										
		オープンガーデン		●											
	地域活動	体験教室			●					●					
育苗・飾花				●	●		●		●	●	●	●	●		
	維持管理		●	●		●		●	●	●	●		●		

(2) 各種団体との関わり

花と緑のぐんまづくりにおける各種団体との関わり方について、図1のとおりまとめた。事業は、各

市町の事務局を中心に、群馬県、市民、事業者、教育機関が関りながら実施される、本研究においては、事業における高校の関わり着目する。

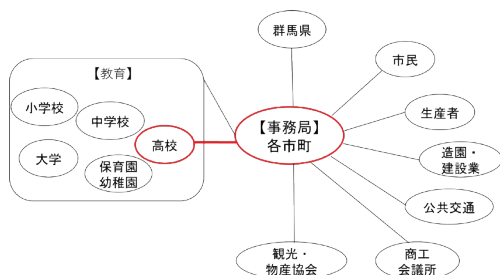


図1 各種団体の関わり方

(3) 各開催地でのその後の活動について

各開催地での花と緑のぐんまづくりの実施後、翌年度以降の継続した事業として、イベントの実施や市民団体等の活動が活発になっている市町がある。

第2回開催の館林市では、翌年度以降、毎年5月の大型連休に花と緑のフェスティバルと題して、イベントを実施している。また、第5回開催の伊勢崎市や、第9回開催の安中市では開催以降もオープンガーデンを実施している。第3回開催の渋川市では、市民協働による飾花拠点の維持管理を2016年度から市内5箇所で行っており、第7回開催の中之条町では、イベント時に使用した花壇を町民花壇として、団体や個人で管理を行っており、2021年度からは入場を有料化するなど観光面への波及効果が見られる。

(4) 事業への高校生の関わりについて

群馬県には、農業学科を有する高校が6校ある。花と緑のぐんまづくりでは、花の生産、会場の飾花、花に関する教室の実施、花の販売など様々な場面で農業学科の高校生が活躍する場面があった。

第2回開催の館林市、第3回開催の渋川市では、農業学科の高校生が地元の小学生に花育を指導した。第12回開催の藤岡市では、前年度の開催地であったみなかみ町に設置したPR花壇のデザインから制作までを藤岡市の高校である、藤岡北高等学校の生徒が関わっている。また、農業学科以外の高校生の関わりとしては、第2回開催の館林市では、地域の名産品である館林紬を地元の高校生がデザインし、工房や行政と協働し展示を行っている。第4回開催の前橋市では、物産販売で県内商業高校が出店しているなど、農業学科の高校以外にも、活躍する場面があった。

4. 関係者へのヒアリング調査

行政および教育職場の担当者へヒアリング調査を

実施した(表2)。調査対象としたのは、高校との関わりがあり、事業後も継続した取り組みがみられる前橋市、藤岡市、中之条町である。中之条町の事業は、行政・民間・教育の連携の推進に寄与したことがわかった。また、来場者が多かった会場では、中心となる人物が地域を巻き込む様子が見られた。

教育の観点からは、高校生が主体的に関われる機会を創出し、活動を多くの人に見てもらい、メディアにも取りあげられることで、生徒の自信ややりがいに繋がったことがわかった。

表2 ヒアリング調査結果

対象	実施日	内容
群馬県県土整備部都市計画課	2020/11/27	【中之条町】他の会場に比べ、事業の実施に多くの地域の関わりがあった。その要因のひとつが、活動の中心となり周囲を巻き込む存在である。また、事業実施後も、観光資源として継続して会場を整備し、多くの来場者で賑わせている。
藤岡市都市建設部都市施設課	2021/1/13	【藤岡市】前年度開催のプレイベントを含め、準備段階から行政・民間・教育の連携が見受けられた。会場の一部で引き続き花壇を整備する団体があらわれるなど、事業の理念が継承されている。
群馬県立藤岡北高等学校教諭	2021/1/13	【前橋市】【藤岡市】花壇制作では、生徒が各々の地域の魅力や地域資源について意見を出し合い、デザインから携わった。活動の様子は、自治体の広報や新聞、地元テレビなどに紹介され、生徒の自信ややりがいに繋がったのではないかと。今後も、行政と連携した事業が継続して実施されることで、生徒の経験に活かされる。

5. 考察

本研究により、事業の継続性について、開催地によっては新規イベントや継続したイベントの実施、またその後の花壇等の維持管理を半数以上の開催地で続けていることがわかった。高校生の関わりについては、花を育て、地域の人との協働で会場に飾花するなど、農業学科の高校生の活躍が多く見られた。

「花と緑のぐんまづくり」は、2021年を以って終了となるが、今後も継続して地域のイベントなど産学官の連携を図り、多様性を認め合いながら、一人ひとりが役割を持つことで、やりがいや地域への愛着の醸成に繋がると考えられる。このことが、これからの持続性のあるまちづくりに必要ではないだろうか。

参考文献

- 1) 中村優里,片桐由希子: 全国都市緑化フェアの効果とイベントレガシーとしての評価, 都市計画論文集 Vol.54, No.3, pp.268-275, 2019